

ニュースレター

いりおもでの森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成20年8月発行 NO:15号



コウトウシラン

上原小学校にて自然環境教育カリキュラムを説明

7月22日(火) 上原小学校において先生方の校内研修がありました。それに伴い当センターに出席依頼があり、平成18年度に作成した「西表島での自然環境教育カリキュラム」等について遠山自然再生指導官が説明しました。

その後の意見交換の中で、先生方から身近な野草・薬草等について、地元の素材を生かした授業のあり方についての質問があり、今後、取り組むべき課題の一つであるカリキュラムのバージョンアップの参考となる貴重なご意見を賜りました。

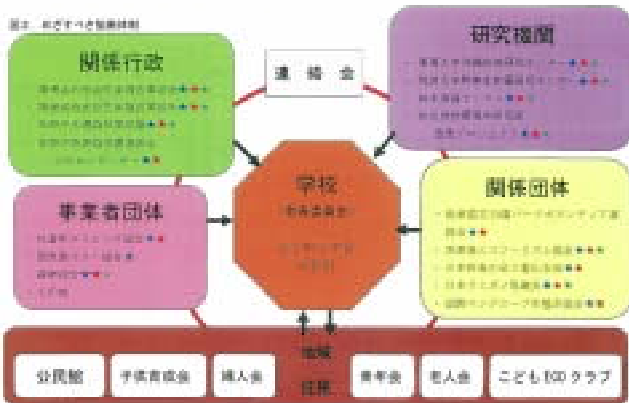
学校からこのようなカリキュラムの説明等の要請があれば、喜んでお伺いしたいと考えています。



上原小学校



説明を受ける上原小学校の先生方



目指すべき協働体制(カリキュラム資料より抜粋)

表1. 自然環境教育カリキュラム

	島崎自然	島崎半島	野生動物の保護	島の安全と防災	島の環境問題
低学年	島の自然 牛島の自然	島尻島 八重山の自然(1)			
中学年	島の自然	重良島		島の安全	生活(2)
高学年	島の自然	八重山の自然(2)	マングローブ自然	島の安全	生活(2)
中学年	島の自然	島の自然	マングローブ自然	島の安全	
高学年	島の自然	島の自然	マングローブ自然	島の安全	生活(2)
低学年	島の自然	島の自然	島の自然	島の安全	生活(2)
中学年	島の自然	島の自然	島の自然	島の安全	生活(2)
高学年	島の自然	島の自然	島の自然	島の安全	生活(2)

学年に応じたカリキュラム(カリキュラム資料より抜粋)

平成20年度 三者連絡会議を開催

7月3日(木) 那覇市において環境省那覇自然環境事務所、沖縄森林管理署、西表森林環境保全ふれあいセンターの三者による連絡会議が開催されました。

冒頭、事務局である那覇自然環境事務所 中島慶二所長から挨拶があり、引き続き各機関から今年度の業務の取り組み状況、今後の展開及び希少種等の保護に係る連携の必要性などについて報告がなされ、それらに係る質疑応答を行いました。今後とも、共通する課題について連携を密にすることとして会議を終了しました。



三者連絡会議

仲間川保全利用協定のモニタリングの支援活動を実施

7月14日(月) 仲間川保全利用協定の締結事業者が実施するモニタリングの支援活動を行いました。

モニタリングは、砂泥の移動状況と幼木の生長について定期的に調査を行うことにしており、取りまとめたデータについては、保全利用協定の締結事業者と情報を共有し、仲間川の保全活動に寄与することを目的としています。

今後とも、仲間川のマングローブ林の保全のため、経過観察を継続して実施することとしています。



測量器械による地盤高調査

平成20年度ヒナイ川の利用状況調査(7月分)報告

ヒナイ川の7月期利用状況調査を30日(水)に実施しました。結果は、カヌーツアーが21組(ガイド含め134名)、レンタルカヌーが5組(13名)で合計26組147名でした。

前日まで、台風8号の影響で石垣島と西表島を結ぶ船舶の欠航などの影響がでていたので、利用者状況が心配された今月の調査でしたが、夏休み本番とあって本年度最高の利用状況を記録しました。特に、小学生や幼稚園児など子供連れの利用者が目立ちました。ピナイサーラの滝壺で泳いできた子供達は一様に「気持ち良かった」と感想を話してくれました。西表島での思い出をたくさん作り帰ってもらいたいと思います。



カヌー体験をする子供たち



船着き場に到着し歓声を上げる利用者

木道の施錠について

8月1日(金) 西表亜熱帯樹木展示林から仲間川支流に至る木道(150m)の安全確保のため、進入口の2箇所に施錠しました。

木道は、地元の小中学校の森林環境教育の場として活用するほか、一般利用者についてはガイド講習会を受講したガイドが安全に配慮しながら案内することとしており、今回の施錠により、これまで以上に安全の確保が図られるものと考えています。



木道の施錠箇所



施錠状況

職員の校内研修会で樹木調査を支援

7月25日(金) 石垣市立白保小学校(西村友三郎校長)の校内研修会に出席し、校内の樹木を中心とした植物の同定指導を行いました。

同校は100年以上の歴史を有し、広い校内には「白保小学校の三本木」と称される大木をはじめ素晴らしい樹木がたくさん生育しています。当日は遠山指導官が樹木の名前、特徴及び方言名などを詳しく説明し、先生方はメモをとるなど熱心に聞いておられました。学校では今後、樹木にラベルを張り、この「学校の森」を森林環境教育等のための生きた教材として活用したいとのことです。

当センターでは、後日、調査した植物リスト及び配置図などを納めたCDファイルを提供し大変喜ばれました。



白保小学校の三本木



熱心に説明を聞かれる先生方



校内植物調査図

西表島の樹木

今回は、西表島に自生するクワ科の植物を紹介します。

ギランイヌビワ（クワ科イチジク属）別名：コニシイヌビワ

学名：Ficus variegata Blume

分布 / 琉球（八重山列島）の石灰岩地域の林内に生え、台湾・中国大陸南部・東南アジア・オーストラリアに分布

生育環境・形態など

高さ8～15m程度の常緑高木であるが、大径木となるものもある。西表島ではマングロー林の背後の山地によく生え、サキシマスオウノキのような板根を形成する。クワ科イチジク属の特徴である花嚢は枝先ではなく太い幹につける（幹生果（花））。また、葉や枝を傷つけると乳管から白色の液をだす。ギランイヌビワの花嚢（幹生果）葉柄は長さ3～10cm、はじめ微毛があるが、のちには無毛となる。葉身は卵形で先は尾状にとがる。雌雄異株（男木と女木がある）。花嚢はやエヤマオオコウモリの大好物である。和名のギラン（宣蘭）は台湾北東部の地名。



転出入者のお知らせ

平成20年8月1日付で1名が転出し、1名が転入しました。

*** お世話になりました ***

元自然再生指導官 瀬高 孝男（担当：外来種対策、希少樹種の保護・保存）

転勤先：四国森林管理局 森林技術センター（高知市） 副所長

（二年間大変お世話になりました。）

*** お世話になります ***

自然再生指導官 田上 正文（担当：外来種対策、希少樹種の保護・保存）

前任地：熊本南部森林管理署（人吉市）総務課長



今回の異動により、日本の殆ど最西南端に位置する西表島をフィールドとして勤務する機会を得まして、不安を持ちながらの赴任でしたが、実際に西表島に入り、初めて見る日本最大のマングローブ林・サキシマスオウノキ等に驚きました。海岸林の自然再生への外来樹種対策のための試験調査、絶滅危惧種等の保護・保全に携わる業務となるため、先ず亜熱帯地方の動植物に興味を持ち、覚えていくことが最優先課題であると思っています。

関係者の方々のご協力を頂きながら取組んで参りたいと考えていますので、よろしくお願い致します。

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>